

厚生労働行政推進調査事業補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

新興感染症の回復者からの血漿採取体制の構築に向けた研究

研究分担者 長谷川雄一 筑波大学 教授

研究要旨 COVID19回復期血症治療：に関する臨床研究報告を収集し詳細を検討した。治療が有効であるとする科学的根拠有する報告は、高齢者の発症早期に高力価抗体を保有する血漿を使用した場合以外なく、対象と方法の検討が必要である。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

COVID19に対し回復期血漿治療：CCP治療が有効であるかを明らかとし、治療対象選定の基本資料とすることでCCP採取体制の構築に活用する。

B. 研究方法

Clinical trial, convalescent plasmaをkey wordと網羅的論文検索を施行。その後無作為割り付け試験報告が出される時期の後は科学的根拠の裏付けがある報告に対象を限定し情報収集を行った。

(倫理面への配慮)

配慮の必要ない研究

C. 研究結果

査読のある医学専門誌に報告されたRCTは4件（マッチドペアを入れれば5件）に過ぎなかった。死亡率、入院期間、呼吸補助機器の使用率のいずれについても比較対象（生理食塩水）との差は観られなかった。唯一で80例ずつを対象とした研究において75歳以上、呼吸障害が軽度である場合に高力価抗体を有するCCPを使用する場合重症化を低下させる報告があったが、死亡率には差が認められていない。CCP治療には対象を選択する必要があることが明らかとなった。

D. 考察

膨大な数のCCP治療が計画されたが真に科学的な報告は少ない。情報の選択は慎重に行うべきである。

E. 結論

COVID19 CCP治療の対象は重症でないことと抗体力価が高いことが現時点で報告された効果影響因子である。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表  
該当なし
2. 学会発表  
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
該当なし